

「夏休みの宿題」という話題から

夏休みの終わりにメディア等で、「最近の夏休みの宿題が変わってきた」という話題で盛り上がっていました。

文部科学省は、学指導要領の中で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」を挙げています。特に「主体的」という言葉がキーワードとなり、子ども自身が学びを進めていくことに意義があります。そこで夏休みの自由研究を含め、子どもたちが自らの課題を見つけ、様々な経験や学び、情報に基づいて学習を進める姿勢を身に付けられるように支援していきたいと考えています。

教科書で出てくる話題は、世の中の問題のごくわずかです。夏休みは終わりましたが、教科書の世界を飛び出して、普段の生活の中で、疑問（不思議）に思ったことを本やインターネットで調べたり、観察・実験をしたりと継続した学びに繋がることを期待します。

